

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町65  
電話 03(5228)3171 FAX 03(5228)3175  
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 2025年 クリスマスマッセージ

### 「母マリアとクリスマス」

日本聖公会 首座主教 ダビデ 上原榮正

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」

(ルカ1:28)

年末になりますと、町ではクリスマスソングが流れ、イルミネーションが輝き、楽しい気分になります。3月25日の受胎告知から12月25日の降誕日まで、聖母マリアも嬉しい楽しい時期を過ごして、イエスさまのご出産を迎えたのでしょうか。聖母マリアはどのような思いで過ごされたのでしょうか。

キリスト誕生の出来事は、「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」(ルカ1:28) というマリアへの天使のみ告げに始まります。それから10ヶ月後、天使がベツレヘム郊外で羊の番をする羊飼いたちへ、「今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」(ルカ2:11) とイエス・キリスト誕生の喜びが告げられます。

受胎告知の後、マリアの心を夫となるヨセフのことや、神のみ子を身籠ったことがみだらだと疑われた時のことなど、恐れや混乱が襲つたことは容易に想像できます。それでも天使の言葉を聞きマリアは、「私は主の仕え女です。お言葉どおり、この身になりますように。」(ルカ1:38) と救い主を引き受けました。当時のユダヤ社会では、結婚前の妊娠は女性を危険な状況にしました。でもヨセフにも天使が現れ、妻として迎え入れるようにしてくれたことで、マリアにもしばしの平穏が与えられます。

出産が迫った時、突然に皇帝アウグストゥスから住民登録の命令が下されます。マリアは夫ヨセフと共にベツレヘムへ出立しますが、旅の途中での出産も予想したはずです。十代のマリアの側には母もヨセフの家族もいなくて、不安を感じていたと思います。マリアはヨセフと旅をしてベツレヘムに着き、家畜小屋でイエスさまを出産しました。

## □会議・プログラム等予定

(2025年12月20日以降・前回未掲載分)

### 2026年1月

- 6日(火) 管区事務所仕事始め
- 7日(水) 日本聖公会セーフチャーチ・ガイドライン(案)読み合わせ会[Web]
- 8日(木) 第70(定期)総会 第1回書記局会議[管区事務所]
- 12日(月) 各教区青年担当者会[Web]
- 15日(木) ~17(土) 祈祷書改正委員会[大森聖アグネス教会]
- 15日(木) ~16(金) 各教区正義と平和担当者会[ナザレの家]
- 16日(金) 正義と平和委員会[ナザレの家]
- 19日(月) ウィリアムズ主教記念基金基金委員会[立教]
- 22日(木) 日韓協働委員会[Web]
- 28日(水) 沖縄プロジェクト会議[沖縄教区センター]
- 28日(水) 金融資産運用管理チーム会議[管区事務所]
- 30日(金) セーフチャーチ・ガイドライン・タスクチーム会議[聖公会神学院]
- 30日(金) ~31日(土)ハラスメント防止対策担当者会[聖公会神学院]

### 2月

- 2日(月) 財政主査会[管区事務所]
- 2日(月) 主事会議[管区事務所]
- 3日(火) 原発問題プロジェクト会議[Web]
- 6日(金) 憲法プロジェクト会議[Web]
- 10日(火) ~12(木) 定期主教会[川越基督教会]
- 12日(木) 常議員会[管区事務所]

★12月25日(木)は降誕日のため、管区事務所の業務を休業いたします。緊急の連絡は総主事まで。

### ※管区事務所年末年始休業

12月29日(月)~2026年1月5日(月)まで、管区事務所は冬期休業となります。緊急の連絡は総主事まで。

(次頁へ続く)

現代と違い、徒歩あるいはロバなど家畜に乗っての旅です。お腹の赤ちゃんを庇い守りながら、大変な旅だったはずです。マタイ福音書では救い主イエスさまの出産で旅は終わりではなく、ヘロデ王の追っ手から逃れてエジプトへと旅は続きます。ベツレヘムではヘロデによる幼児虐殺が行なわれました。

人が人生に求めるものは、クリスマス商戦が呈するように、おいしい物を食べ、素敵なお土産を貰い、楽しい、嬉しい、愉快な時を過ごすこと、多くを持つ、豊かさなどです。でも、聖母マリアやヨセフが救い主と引き換えに神さまから頂いたものは、不安、恐怖、混乱、狼狽、苦痛などと忍耐と忍苦の連続でした。パウロはこの堅忍を必要とする事態を、「この苦難はあなたがたの栄光なのです。」(エフェソ3:13)と述べました。不安や恐れがマリアとヨセフをより神さまに頼む者にして、信仰を強くしました。キリストの受難と復活がなければ、私たちの罪からの救いがなかったように、マリアやヨセフの困難、労苦なしに救いの誕生はありませんでした。

受胎告知の後、危難や恐怖の中にいたマリアをヨセフとその家族が妻として受け入れてくれたこと、ベツレヘムで出産の気配を感じ途方に暮れていた時、家畜小屋が宿として与えられたこと、貧しい羊飼いたちが小屋を訪ね、天使たちの話をしてくれたことなど、ささやかなことですが、2人に小さな喜びが与えられていきます。そんな小さな出来事がマリアに希望を与え、赤ちゃんイエスを育てていく勇気や力となっていましたと思うのです。

クリスマスはイエスさまの人生の出発です。ヨセフとマリア、イエスさまという聖家族の始まりです。私たちキリスト者にとっても、クリスマスは新年の始まりです。2026年もキリストと共に歩んで行きましょう。

戦後80年目のクリスマスです。世界が平和となりますように祈ります。

#### (前頁より)

- 13日(金) 年金委員会〔管区事務所+Web〕
  - 16日(月) 神学教理委員会〔管区事務所〕
  - 19日(木) ナザレ委員会〔管区事務所〕
  - 20日(金) 資料保管に関する東西合同会議〔Web〕
  - 21日(土) 原発のない世界を求めるZoom カフェ〔Web〕
  - 23日(月) 第70(臨時) 総会〔管区事務所+Web〕
  - 24日(火) ~26(木) 管区共通聖職試験〔各教区〕
- 3月**
- 3日(火) ~5(木) 日韓協働合同会議〔福岡聖パウロ教会〕
  - 9日(月) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会〔管区事務所+Web〕
  - 13日(金) ~14(土) NVC 非暴力コミュニケーション研修〔聖公会神学院〕
  - 26日(木) 管区共通聖職試験委員会〔Web〕

#### <関係諸団体会議・他>

- 1月14日(水) エキュメニカル協働基金選考委員会(NCCフリースペース)
- 21日(水) 日本キリスト教連合会・常任委員会〔Web〕
- 22日(木) ~23日(金) 外キ協全国協議会〔東京〕
- 23日(金) 外キ協全国集会〔東京〕
- 2月2日(月) NCC常議員会〔Web〕
- 3月12日(木) ~14日(土) マイノリティ円卓会議・ラウンドテーブル〔ルーテル市ヶ谷センター〕



#### □主事会議

第68(定期) 総会期第6回 2025年11月17日(月)

##### <主な報告・協議>

1. 社会事業の日の信施奉獻先について、聖公会社会福祉連盟の推薦通り「聖マッテヤ会・にじの家(共同生活援助)の改築のため」を承認(10/20メール裏議の追認)。
2. 緊急災害援助資金からの支出について、国

際パレスチナ難民救済事業機関(UNRAWA)

医療局長の清田明宏氏を通じ、パレスチナ支援のための献金から20万円を寄付することを承認(10/28メール裏議の追認)。

3. 大斎克己献金国内伝道強化プロジェクトの選定について、横浜教区「教区センター整備計画」への援助を承認し、常議員会に諮ることとした。

## 公示

日本聖公会第70(臨時)総会を下記のように招集いたします。

救主降生 2025年11月25日  
日本聖公会 総会議長  
主教 ダビデ 上原 榮正㊞

記

### 第70(臨時)総会

日 時：2026年2月23日(月・休) 18時から21時まで  
(19時から議事開始)

場 所：日本聖公会管区事務所 他(オンライン開催)  
〒162-0805 東京都新宿区矢来町65 他 各教区

議 案：教区新設を承認する件  
宗教法人「日本聖公会北関東教区」規則変更を承認する件  
日本聖公会北関東教区の基本財産変更を承認する件  
「日本聖公会総会代議員選挙規則」一部改正の件

以上

4. 管区事務所の職員に関する規程について、給与規定(地域手当新設)と休暇規程(育児・介護休業を追記)の改定案を承認し、常議員会に諮ることとした。
5. 2025年度一般会計などの収支中間報告および補正予算について、2026年度から資金勘定統合などによる補正を行なうことを承認し、常議員会に諮ることとした。

次回会議：2026年2月2日(月)

### □常議員会

第68(定期)総会期第7回 2025年12月4日(木)

#### <主な決議事項>

1. 2025年度一般会計などの収支中間報告および補正予算について、2025年度の補正是行なわず、2026年度から資金勘定統合などによる補正を行なうことを承認した。
2. 管区事務所職員に関する給与規程と休暇規程の改定について、承認した。

3. 管区事務所職員の定期昇給について、承認した。
4. ミャンマー聖公会タウンジー教区からの建築プロジェクトへの支援要請について、建築がまだ先であることに鑑み、しばらく様子を見ることとした。
5. 大斎克己献金国内伝道強化プロジェクト選定について、横浜教区「教区センター整備計画」の申請書の是正を要請し、メール稟議することとした。
6. 基本財産変更(京都教区)について、概要の説明を受け、後日12月6日の教区会決議を見てメール稟議することとした。
7. 北関東教区・東京教区の新教区設立に関する教務などについて、確認した。
8. 広報主事の交代について、候補者をあげて交渉することとした。
9. 改正祈祷書の出版について、担う人材が必要であることを確認した。

次回会議：2026年2月12日、4月21日

**□各教区****北関東**

- ・第93回(定期)教区会 2025年11月24日  
(月・休)教区新設を承認する議案可決。

**東京**

- ・第147(定期)教区会 2025年11月22日  
(土)教区新設を承認する議案可決。

**†逝去者** 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

**司祭** ビカステス今井栄治師(東京・退)  
2025年11月25日(火) 逝去(98歳)

**《人事》****東京**

司祭 グロリア西平妙子	2026年3月31日付	聖救主教会牧師の任を解く。 葛飾茨十字教会管理牧師の任を解く。 東京教区への出向を終了し沖縄教区に復帰する。
司祭 ステパン卓 志雄 ヨナ前澤弘之	2025年11月22日付 2025年11月22日付	東京教区事務所総主事代務の任を解く。 東京教区事務所総主事事務取扱の任を解く。 東京教区事務所総主事に任命する。

**横浜**

《信徒奉事者認可》	2025年12月2日付	(任期:1年)
(秦野聖ルカ教会)	アンジェロ白井芳幸	
司祭 テモテ姜 晓俊	2026年3月31日付	八日市場聖三一教会牧師、銚子諸聖徒教会管理牧師の任を解く。
	2026年4月1日付	藤沢聖マルコ教会牧師に任命する。
司祭 ダビデ渡部明央	2026年3月31日付	横浜聖アンデレ教会牧師、川崎聖パウロ教会管理牧師の任を解く。
	2026年4月1日付	八日市場聖三一教会牧師、銚子諸聖徒教会管理牧師に任命する。
司祭 ペテロ松田 浩	2026年3月31日付	藤沢聖マルコ教会牧師、秦野聖ルカ教会管理牧師の任を解く。
	2026年4月1日付	横浜聖アンデレ教会牧師、川崎聖パウロ教会管理牧師に任命する。
司祭 サムエル北澤 洋	2026年4月1日付	秦野聖ルカ教会管理牧師に任命する。

**神戸**

主教 バジル八代 智	2025年12月1日付	姫路頤栄教会管理牧師、鳥取聖ルカ教会管理牧師、広畠聖ミカエル幼稚園チャップレン(非常勤)を委嘱する。 ただし、それぞれの主日礼拝、その他の勤務について、神戸伝道区内で勤務調整のうえ、協力司祭を派遣する。
------------	-------------	--

			また、広畠聖ミカエル幼稚園チャップレン（非常勤）については、小南晃退職司祭の協力を含め、神戸伝道区内で調整する。
司祭 マルコ藤井尚人	2025年11月30日付	鳥取聖ルカ教会管理牧師の任を解く。	
	2025年12月1日付	主教バジル八代智の管理のもと、医師の指導を配慮のうえ、姫路顯栄教会において主日勤務を命じる（姫路顯栄教会に定住）。	
<b>九州</b>			
司祭 バルナバ牛島幹夫	2025年12月31日付	願いにより退職を許可する。	
<b>沖縄</b>			
司祭 ベネディクト高 英敦	2026年3月31日付	愛楽園祈りの家教会牧師、屋我地聖ルカ教会管理牧師の任を解く。	
		定年により退職とする。	
司祭 ヨハネ戸塚鉄也	2026年3月31日付	宮古聖ヤコブ教会牧師の任を解く。	
		定年により退職とする。	
司祭 ドミニカ朴 美賢	2026年3月31日付	名護聖ヨハネ教会牧師の任を解く。	
	2026年4月1日付	愛楽園祈りの家教会牧師、屋我地聖ルカ教会管理牧師、名護聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。	
司祭 イザヤ金 汀洙	2026年3月31日付	島袋諸聖徒教会牧師の任を解く。	
	2026年4月1日付	主教座聖堂三原聖ペテロ聖パウロ教会牧師、島袋諸聖徒教会管理牧師、小禄聖マタイ教会管理牧師に任命する。	
司祭 ルシア並里輝枝（退）	2026年4月1日付	司祭イザヤ金汀洙の管理のもと、島袋諸聖徒教会嘱託司祭として勤務することを委嘱する。（任期：1年）	
司祭 マタイ金山昭夫	2026年3月31日付	首里聖アンデレ教会副牧師の任を解く。	
	2026年4月1日付	首里聖アンデレ教会牧師に任命する。	
司祭 イサク岩佐直人	2026年3月31日付	主教座聖堂三原聖ペテロ聖パウロ教会牧師、首里聖アンデレ教会管理牧師の任を解く。	
	2026年4月1日付	宮古聖ヤコブ教会牧師に任命する。	
司祭 クララ咸 允淑	2026年3月31日付	豊見城聖マルコ教会牧師、小禄聖マタイ教会管理牧師の任を解く。	
	2026年4月1日付	石垣キリスト教会牧師に任命する。	
司祭 グロリア西平妙子	2026年3月31日付	東京教区への出向の任を解く。	
	2026年4月1日付	豊見城聖マルコ教会牧師に任命する。	
司祭 ヨシュア上原成和	2026年3月31日付	石垣キリスト教会牧師の任を解く。	
	2026年4月1日付	聖公会神学院の継続教育制度に基づき、留学を認める。（期間：1年）	
クリストファー大倉信彦	2026年4月1日付	司祭ドミニカ朴美賢の管理のもと、名護聖ヨハネ教会において、勤務を命じる。	

## 2025年教区会選出常置委員

北海道	聖職	大町信也（長）	永谷 亮	下澤 昌
	信徒	大友 宣	小澤暢子	吉谷かおる
東北	聖職	越山哲也	八木正言	渡部 拓
	信徒	赤坂有司（長）	畠山秀文	坂水かよ
北関東	聖職	斎藤 徹	矢萩栄司（長）	鈴木伸明
	信徒	廣瀬 清	養田 博	石森真子
* 東京	聖職	中川英樹（長）	上田亜樹子	卓 志雄
	信徒	植松 功	黒澤圭子	後藤 務
横浜	聖職	片山 謙	宇津山武志（長）	小林祐二
	信徒	中林三平	村井恵子	岩井讓治
中部	聖職	江夏一彰（長）	丁 僕植	大和玲子
	信徒	牛島達夫	上野光一郎	河西恵子
京都	聖職	小林宏治	大岡左代子（長）	黒田 裕
	信徒	谷口 寛	中川典子	安屋敷三知
大阪	聖職	義平雅夫	柳 時京（長）	成岡宏晃
	信徒	辻 彩乃	加納佳世子	田尻忠邦
神戸	聖職	瀬山会治	竹内 宗（長）	長田吉史
	信徒	芝 雅子	塔田直文	末永 忍
九州	聖職	李 浩平（長）	小林史明	塚本祐子
	信徒	東 美香子	細川眞二	柴田康子
沖縄	聖職	金 汀洙	咸 允淑	岩佐直人（長）
	信徒	知花なおみ	並里 厚	宮城正子

\* 東京教区は常置委員を毎年3月の教区会で選出



## □「代祷表 2026年1月」について

ACP (Anglican Cycle of Prayer) 発行の代祷表(翻訳版)は、『管区事務所だより』の同封物として奇数月にご送付させていただいております。すでに2025年9月号に同封いたしました「代祷表 2026年1月」発行の時期は、表紙に求められている「キリスト教一祈禱週間のテーマ」が発表されておりませんでしたが、このたび日本キリスト教協議会より2026年のテーマが発表されました。管区事務所HPの代祷表資料データに更新版をアップロードいたしましたので『管区事務所だより』でもお知らせし、みなさまには同HPよりダウンロードいただき、ご活用くださいと幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。 管区事務所 総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

## 2025年を振り返って 『総合報告』

管区事務所 総主事 エッサイ 矢萩新一

# Merry Christmas !

2025年は日本聖公会全体で大きな変化があった年でした。2月に神戸教区主教と京都教区主教が辞職、3月末には大阪教区主教と九州教区主教が定年退職をされ、九州教区と神戸教区では教区主教選挙が行なわれ、京都教区では伝道教区への移行が決議されました。4月には大阪教区、7月には九州教区、9月には神戸教区で主教接手・就任式が行なわれ、京都教区が北関東教区に続く伝道教区となって管理主教体制となりました。1年間で3回の主教接手式が行なわれ、11月には北関東教区と東京教区が教区新設立を両教区会で決議されました。来年2月23日に予定する臨時総会で承認されれば、5月に新教区（東日本教区）設立の教区会を開催し、教区主教選挙と常置委員選挙・総会代議員選挙が行なわれることになります。来年2026年は日本聖公会が1972年に沖縄教区が加わり11教区となつて54年目、歴史的な組織再編の始まりの年となるでしょう。

阪神淡路大震災から30年を迎えた1月には心を合わせて祈り、敗戦後80年で、沖縄・広島・長崎での平和礼拝や正義と平和委員会の各プロジェクトでの企画、ウクライナやパレスチナでの戦闘の終結を覚えて祈り、東日本大震災から14年、もうすぐ2年となる能登半島地震の被災者支援、今年3月に起ったミャンマー地震への支援、カンタベリー大主教の辞職と聖公会で初めての女性のカンタベリー大主教の選出など大きな出来事がいくつもありました。ハラスメン

トという言葉を虐待という言葉に含み、教会が誰もが安全で安心できる場所となれるようにセーフチャーチ・ガイドラインの策定を進めています。また、日本聖公会において信仰と生活を共にする人が、神に造られ、いのちを与えられた民として、キリストと共に旅路を歩んでいくために用いる祈りの書 — 多彩ないのちを大切にする21世紀日本の聖公会祈祷書 — を目指して、祈祷書の改正作業も進められています。

各教区の教会へは、5年後の教会の姿を教勢と財政の面から見つめ直すアンケートをお願いし、宣教と財政は信仰生活の両輪であることを改めて意識しました。

これから日本聖公会はどうなっていくのだろうかと不安を抱くこともあるかも知れませんが、宣教の最前線は地域に建てられた一つ一つの教会です。先月の巻頭言の最後にも記しましたが、日本の地に聖公会という神さまの宣教の器が与えられた意義や使命を捉え直しながら、恐れずに歩みを続けていきたいと願います。これからも日本聖公会の変化し続ける歩みを覚えて祈りながら、それぞれの場の小さな一步であつたとしても、福音を証し続けてまいりましょう。

私たちが暗闇に留まることのないように、キリストは光として世に来られました。今年もクリスマスを祝い、いつも私たちと共にいてくださるイエスさまを迎えて、2026年の歩みを起こしていきたいと思います。

## 2025年各教区財政担当者連絡協議会

一対面会議の実施から得たものー 2025年11月28日～29日 ナザレの家

管区事務所 財政主事 セシリ亞 鈴木裕子

【コロナ禍の終焉】としてスタートした2025年でした。リモートによるZoom会議に、対面も加えたハイブリッド会議が増え、完全対面会議も回復し、【生】のコミュニケーションの【温かさ】に格別な感謝をおぼえました。

しかしながら財政的にはコロナ禍の終焉どころか、すべての教区で「信徒数の減・・」「献金の減・・」は続き、その厳しさは益々つのるばかりだったといえます。とりわけ教役者の給与との支援体制は、教区再編を目前に、これ以上の猶予時間はナイ!となり、開催予定の【各教区財政担当者連絡協議会】のメインテーマを【教役者給与について】とすることが1月の財政主査会で決定、資料としての各教区へのアンケート作りが翌2月から始まりました。

全教区の情報集約部署である、管区事務所総務主事が中核となり、たたき台⇒打合せ⇒試案⇒打合せ⇒原案⇒精査・決定そして各教区を通じ各教会へアンケートを送信! 続いて2か月後に各教区へアンケートその①の送信! 引き続き、2か月後にアンケートを回収し、内容・感想等をデータ化し、そのまとめを各教区にフィードバック。さらにデータより読みとれたトピックスに関する事項をまとめて、アンケートその②の送信、2週間後に回収し、再度内容・感想等をデータ化し、まとめて報告書の作成。協議会前日に出来上がったばかりのまとめと報告書をプリントアウトして、【各教区財政担当者連絡協議会】で皆さんとの情報共有の資料としてお渡しすることができました。1年がかりの(試行錯誤しながらの必死の)アンケートを通して、各教区財政担当者だけでなく、教会委員さん(信徒さんも) 司祭様(管

理司祭様)、主教様からも熱のこもった回答を戴き、お陰様で読み応えのある報告資料となりました。心から感謝申し上げます。以下11月28日～29日 1泊2日 ナザレの家で開催された【各教区財政担当者連絡協議会】の報告をさせていただきます。

日時：11/28（金）17:00～11/29（土）15:00

1泊2日（両日とも小春日和でした）

会場：ナザレの家集会室 聖家族礼拝堂

エピファニ一館（宿泊）

参加者：上原榮正首座主教、各教区から財政担当者1名～2名、管区事務所総主事、財政主事、財政主査、金融資産運用管理チーム、総務主事、事務担当者 総勢33名

ゲスト：田中義幸公認会計士・税理士（管区顧問：宗教法人会計の指針策定委員長等歴任）

### 1日目

【開会の祈り 17:00】司式 矢萩総主事 に続き出席者全員の自己紹介（名前と教会名）

#### 【報告1】 教区間情報交換

（北関東・東京新教区設立報告）

数日前の各教区会で新教区設立の決議が採択され、「東日本教区」設立を目指す北関東教区の委員さんから、【両教区会での決議】までの長く険しい道のりの報告がありました。

2020年に伝道教区として歩みをはじめて5年目、やはり一番の難所は、かなりの隔たりのある教役者給与の納得のある着地点をどのようにして見つけるか！でした。

「決して不利な変更はしない」「信徒に経済的

な負担はかけない(献金は上げない)」を掲げて収益事業を駆使して、給与の問題も2年間かけて何とか調整可能な線が見えてきたようです。主教座は東京教区聖アンデレ教会、主たる事務所は現東京教区事務所、従たる事務所は大宮の現北関東教区教務所に、宣教をサポートする「宣教センター」と若者育成のための「青少年ベース」の設置。こうして日本聖公会の教区再編の扉は開かれようとしています。

**【セッション1】 教区アンケートIを実施して  
(各教区からのコメント: 5分)**

「高齢化・信徒減少・献金減少・建物の老朽化」が全教区共通の深刻な課題。

「財政の問題は宣教の課題といえる」共通認識。

5年後10年後の見通しあかなり暗い・・・でも

\*会計システムの統合が済み相互人の交流や  
資産の運用で対策開始(北海道・東北)

\*今いるメンバーで何とかという限界感の中で  
教区には伴走型実務支援を望む(東京)

\*信徒数維持のため、休眠信徒へのアプローチと青少年の育成(横浜)

\*将来を再認識し、ゼロベースからのスタート  
の気持ちでいる(中部)

\*悲観的な結果ではあったが5年後を考え  
るキッカケとなった。(京都)

\*教会内でも未来を考える機会をふやし、地域へ働きかけを進めたい(大阪)

\*近隣教会との合併。また日曜学校等子供の  
育成を目的とした機会をふやしたい。(神戸)

\*財政の困窮と献金の口数が激減(少人数で  
支える)多くの人が支える体制が必至(九州)

\*信徒数、財政規模は小さいが休眠信徒への  
声かけ等独自の工夫を実施している(沖縄)

**【夕の祈り】 聖家族礼拝堂にて聖歌2曲を歌い  
改正祈祷書試用版による夕の祈りを捧げました。司式 矢萩司祭**

～夕食懇談会～

**2日目**

**【朝の祈り】 聖家族礼拝堂にて聖歌2曲を歌い、改正祈祷書試用版による朝の祈りを捧げました 司式 矢萩司祭**

**【報告2】**

**\*管区財政の現状報告**

各教区から分担金も厳しい財政のなか、予算通りに送金され、加えて多額の遺贈や寄付のため収支差額は黒字となっています。但し分担金Iについては減額に見直す方向で検討中です。

**\*教役者給与支援について**

本来は各教区の問題ではあるが、各教区からの分担金の協力を得て、この5年間下位2教区への支援を行なっている。昨年度から上限500万円を2教区に管区標準給与から算出して支援している。教区内努力によって、支援教区から不要となった例もあるので今回の教区統合の気運をきっかけとして、もう一度教区内での改善の検討も必要ではないか?

**\*収益事業委員会から**

2024年から開始したNSKK神楽坂(旧聖公会センタービル)のテナント収入が順調に推移。収益は聖公会年金(退職された教役者、遺族の年金)の源資として貢献することになる。管区は3件の不動産(NSKK渋谷とSJハウス志木)で収益事業を行なっている。

**\*管区資産運用チームアドバイザーから**

ナザレ資金の統合により資産が増えたため、運用・管理規程を見直し、献金(信徒からの預かりもの)の運用であることを肝に命じ、安全第一の運用体制をとっている。チームの構成メンバーの性格上「弁済責任」はとれないと「参加責任(運用決定に参加した)」を明白にすべく、原則決定は、メンバー全員の合意によるとし案件ごとに署名をしてファイリングしている。

**\*建築金融資金のより有効な活用(少額で身近な例ええばエアコンの設置費用等)を案内していきたい。(500万円まで無利子)**

**【上原榮正首座主教ご挨拶より】**

どの教区も財政の問題は重大であり信徒の献金減少も共通の悩みであるが、ここは信徒と聖職が一体となり、地域の中で何ができるか知恵を絞らなければならない。困難な世の中で、今こそ福音宣教が必要な時。

\*教役者と信徒のコミュニケーションの機会をふやす

\*教会間相互の助け合い(補助、援助体制)

\*韓国での土地に根付いた農業ミニストリーで仲間をふやす試みの紹介。

**【セッション2】教区アンケートⅡを受けて(教区アンケートIの集計と合わせて)**

\*「北の大地からの呼びかけ」東北教区との新教区設立をめざして着々と準備を進めている北海道教区のミッショントン《つながる、つなげる、つながらさる》からの報告。

まず神様とつながり、隔てを超えて、人と人が、地域どうしが、教会どうしがつながり、そして世界とつながることで神様のため、人々のため、福音の道をあるきつづけます。(北海道)

\*信徒の増加を見込んでいる教会の取組み(宣教への向きあい方)を学びたい(東北)

\*構造的な枠組みの再編として教区内の教会の統廃合、跡地の収益事業、献金に頼らない教役者待遇改善の方法(学校法人、収益事業からの補填等)を共有したい(北関東)

\*諸々の「減少をなげく」ではなく「限られた中でも支え合う」方向へ歩みを進め各教区で模索されている財政支援の仕組みづくりや地域の連携等共有したい(東京)

\*教会統合の進め方、資産の売却、献金以外(収益事業、出向)の収入等、財政と宣教を合わせ如何に対応するか(横浜)

\*2022年「中部教区の現状」の報告書以降情勢の改善はないが、担い手を育成し、従来の活動を身の丈に合わせて整理し少数でも担えるように活動の効率化や配置の見直しを進めたい(中部)

\*信徒への負担増はうけられないし、経費節減も限度に達している状態で今までの毎主日の聖餐式を維持できるのか?教会数は妥当だろうか?付属施設の経営は今後も大丈夫だろうか?根本的な見直しが必要だと再認識した(京都)

\*アンケートの数字をみて改めて焦りさえ覚える。各教区の関連施設との連携、協働についても参考に検討を始めたい(大阪)

\*教区内の全信徒に対し財政改革、宣教についてのアイデアを広く募集している(神戸)

\*財政的には教役者給与の払い方が最重要課題である。各教区の事情、対策等参考にしたい(九州)

\*小さな県に12教会。各教会で運用している収益は特別分担金として教区に納めるか、各教会の運営に充てている。運営の安定を目指している(沖縄)

**【特別講義】-宗教法人は何故非課税なのか-  
管区顧問税理士・会計士の田中義幸さんからお話をうかがいました。**

\*法人税:宗教法人は、持ち主がいないため原則非課税。

\*固定資産税:「専ら宗教のように供する」ものは非課税(境内地、牧師館等)。

専らとは-宗教の教義を広め、宗教行事を行い、信者の教化育成を行なう-

\*所得税:対価がある場合(収益事業)は課税対象。ただし献金、寄付、お布施等は対価とはみなされず非課税です。

**【セッション3】各教区からの前向きな宣教に向けての情報交換、質疑応答、意見交換**

\*地域的な孤立感をうめるため相互訪問の機会を多く持とうとしている。東北教区との新教区設立を前提に広報セクションを中心に各教会の訪問と説明、またスタンプラリーを通じて東北教区との連携も進められている。(北海道)

\*幼稚園との協働を積極的に推進したい(教役)

- 者の派遣) 北海道との新教区設立を見据えて各教会への丁寧な周知を実施中。(東北)
- \*新教区(東日本教区)として、教区の枠組みを超えて取り組んでいくことが重要課題(北関東)
- \*統合にあたり財政・宣教に関するロードマップを作製中。5年後の明るい見込みが6教会から報告されている。定住牧師がいない教会もあるが近隣や新来者へのフォロー、日曜学校の強化、地域イベントの活性化等、工夫しながら実績が上がりつつある(東京)
- \*献金減少には牧会活動資金の拡大のための協力を呼びかける。教会委員の世代交代に向け若者に役割を担ってもらう(定着を目指す)婦人会に代る集まり(男性込み)や教会の中庭の提供等で寄付を募る試み等。(横浜)
- \*司祭が幼稚園のチャプレンを務め、保護者や園児とかかわりが強められることで宣教の突破口ともなりうる。(中部)
- \*逝去者が増えその状況を把握することで、コミュニケーションを取りたい、教会委員を若い世代に引き受けてもらい、地元の広報活動(祭り宣伝等)を担当。(京都)
- \*建物の建替えにより信徒数の拡大が見込まれる教会では、助産師学院と連携することで子育て世代の悩みに寄り添う取り組みも始まっている。(大阪)
- \*年1回の礼拝出席者への積極的なフォローにより信徒拡大の可能性が出ている。定住牧師不在の教会でも信徒による「みことばの礼拝」が好評継続中(神戸)
- \*収益事業会計の繰入でやっと教会運営を維持し、教会統合、伝道所統合等も進んでいるが「子ども食堂」なども開きなんとか地域に用いられるよう活動している。(九州)
- \*葬儀を大切にしている、遺族や参列者が教会の良さを感じる外部との重要なコミュニケーションの機会ととらえている。またSNSや信徒養成の場を設けたり、教会合同でバースツアーや開催も実施したりして信徒コミュニケーションを図っている(沖縄)

**【まとめ】 ファシリテーターの中林三平さん  
(財政主査)より**

- \*財政の問題は宣教活動を活発にさせなければ解消しない。  
財政は宣教の結果を反映するものである。次回は宣教担当者の参加を戴き共同開催が望ましい。
- \*宣教活動の最前線は各教会である。  
教区、管区の財政的な支援は限られているが、宣教への教区横断、教会横断の情報収集と集められた情報提供発信ができる。
- \*若手育成として教会業務を担ってもらうための仕組みづくり。  
業務の一部を分担することであっても、思いもよらない発想がでてくる(ネット上のアピール等)。若手のパワーで情報力を育てる。
- \*「今後この教会をどうしていくのか」  
教役者と信徒によるこの「使命感」が鍵を握っている。

**【閉会の祈り 15:00】 司式 矢萩総主事、祝祷  
上原榮正首座主教**

二日間の協議会は無事にお開きとなり余韻を楽しみながら各自帰途につかれました。

活発、そして充実した協議会でした、たくさん情報、丁寧な報告が共有されました。

教会としての個性的なアクションプラン、教区管区としてのサポートシステム等々、【多くの情報の種】を共有することができました。記録にとどめず、今度は各教区各教会で【種まき】をお願いしたいと思います。そして大きな実りは是非シェアしたいと願っています

**共に歩む道**

「減少を嘆く」から「限られた中で支え合う」へ  
数字は厳しいが、各教区に希望の芽がある  
財政は宣教の課題

— 神様の恵みへの応答として  
「小さな群れよ、恐れるな」のみ言葉と共に

**女性デスク／正義と平和委員会 ジェンダープロジェクト****2025 女性に対する暴力根絶を求めて祈る礼拝**

2025年11月27日 東京教教区 聖アンデレ主教座聖堂

**女性に関する課題の担当者****京都教区 司祭 セシリ亞 大岡左代子**

今年も、東京教区聖アンデレ主教座聖堂と女性デスク／正義と平和委員会ジェンダープロジェクトの共催によって「女性に対する暴力根絶を求めて祈る礼拝」を行なうことができました。この礼拝は、2017年から東京教区聖アンデレ主教座聖堂の礼拝として始められたものですが、2019年からは女性デスク／正義と平和委員会ジェンダープロジェクトの共催で行なわれるようになりました。この礼拝は、毎年11月25日から12月10日まで行なわれる世界的な取り組みである「ジェンダー暴力と闘う16日間キャンペーン」のひとつの具体的行動でもあります。

今年の説教者であるバルナバ小林聰主教（大阪教区）は、静かに、しかし力強く「暴力の連鎖を断ち切る」というテーマをもって語り、また私たちに問いかけられました。

選ばれた聖書の箇所は「ヨハネによる福音書8章1節～11節」でした。日常の生活の中で暴力にさらされている女性と出会ったイエス、そのイエスの姿から私たちは何を学ぶのか。小林主教は、映画『禁じられた遊び』についての河合隼雄著『子どもの宇宙』からの文章を引用。「少女からの告解を聞いた神父は自分が悩み苦しんでこそ宗教者であるはずが、守秘義務を破り、大人たちの争いを避けるために告解の秘密を暴露し、少女の魂を抹殺した、これがどうして聖職者と言えるのか、教会という組織が出来上がるとそれを維持することに専念し、魂を殺すことにまで発展していく可能性がある」という厳しい指摘を紹介されました。その背景には、小林主教自

身が京都事件において、当時被害を受けられた方の声を聴かず組織に迎合した二次加害の当事者であるという思い、その罪を負いながらどう生きるのかが今も問われている、という現実があることも率直に話されました。映画『禁じられた遊び』において魂を抹殺された少女と京都事件における被害者が重なり、組織が少女の魂を殺した事実の前に、どのような悔い改めができるのか、また組織に属する者が「暴力」にどのように向き合うことができるのか、そのことをイエスから学びたい、と言い、福音書におけるイエスと女性の出会いの物語へと場面は転換されました。

この物語からは、イエスは、自分が被ってきた暴力、被害について「声を挙げる勇気」が必要であること、すべての声を聴くことが大切であること、またこれらは正当な裁判の必要性を訴えていると語り、同時に、その声を聴く側は、声を挙げている人の魂を見殺しにしないことの大切さを訴えられました。そして「あらゆる暴力がまん延しているこの世界、私たちは握っている石をそっと手放すことができますように」と締めくられました。

礼拝後は、西原美香子さん（管区ハラスマント防止・対策担当者）を語り手にお招きし、「セーフチャーチ・ガイドライン」についてのミニレクチャーの時間を持ちました。

日本聖公会では「セーフチャーチ・ガイドライン日本聖公会版」を2026年の総会で決議するべく準備を整えています。西原さんからは、そのガイドラインの成り立ちや、大切にしたいこと、この

度、各教区の教区会において教役者議員、信徒代議員には『セーフチャーチ：始め方ガイド』が配布されていると思いますが、この『始め方ガイド』の用い方も説明され、ぜひそれぞれの教会で活用していただきたいとアピールされました。教会という存在が、安心・安全な場であることは宣教的な視点から見ても非常に重要な要素です。「セーフチャーチ・ガイドライン」には「ことに子ども、青年、弱い立場にある大人の安全を高めるため」という目的が明記されています。礼拝で読まれた福音書に登場する女性の姿が重なります。その立場であるがゆえに声を挙げることが難しい人がいる、という想像力を持ちたいと思います。最初の翻訳版「セーフチャーチ・ガイドライン」が出された当初は、否定的な反応も多かつたと記憶していますが、今は少しづつ理解が進んでいるのではないかと思います。西原さんのミニレクチャーを聞いた参加者から「以前に聞いた時は、教会はセーフではないの?と思ったが、

今日セーフチャーチの文化をつくる、ということを聞いて目が開かれた。できることをやってみたい。」という声がありました。「セーフチャーチ」は一朝一夕にできるものではないと思いますし、また「これで完成」というものでもないと思います。声にならない声、小さな声を聴くことのできる教会となるためには一人ひとりの気づき、共同体全体での理解や取り組みが必要となるでしょう。

「キリストのからだである教会のなかで加えられる暴力は、キリストのからだに加えられる暴力である」『始め方ガイドP21』と言われています。私たちは、教会の中にある「暴力」を見過ごしにしない者でありたいと思います。

なお、礼拝とミニレクチャーの動画は東京教区聖アンデレ主教座聖堂のHPから配信を予定しています。どうぞご覧ください。



**イエス様と歩く**  
コリドーウォーク  
回廊を歩く 黙想会



日時:2026年1月12日(月)9時~16時半  
場所:ナザレの家(東京都三鷹市)  
共催:東京教区 信仰と生活委員会 共育プロジェクト  
日本聖公会ナザレ委員会  
持ち物:参加費 1500円・昼食  
申込み・問い合わせ: [kyouikpj@gmail.com](mailto:kyouikpj@gmail.com)  
申込期間:12月15日(月)~1月9日(金)  
先着順(定員 20名)



QRコードからも  
申し込みます

# USPG 人身取引と現代奴隸制に関する国際会議に出席して

## — 11/3～8 ウェストベンガル（インド）における学びと祈りの旅 —

東京教区 聖オルバン教会 トマス・アッシュ

### はじめに — 召命の見極めに導かれて

主の平和。

11月初旬、私は北インド教会ドュルガプル教区と USPG (United Society Partners in the Gospel) 共催による「人身取引と現代の奴隸制」に関する6日間の国際会議に参加する恵みにあずかりました。今回の機会をお与えくださった日本聖公会、特に上原榮正首座主教、矢萩新一総主事、そして東京教区の高橋宏幸主教に心より感謝申し上げます。また、会議と参加者のためにお祈りくださったすべての皆さまに深く御礼申し上げます。

この会議は、私にとって、「変容の経験」となりました。インドへ出発するちょうど1か月前、私は1年間の「見守りプログラム」を終えたところでした。それまで委員の皆さまと共に、私は按手へと招かれているのかどうか、祈りのうちに探り続けてきました。その最終報告書の提出期限は、出発のわずか2日前でした。

その報告書のなかで、私はこの1年を通じ、「自分はどのような形で献身していくのだろうか」という思いが次第に取り除かれていったことを書きました。今は牧師、執事、また別の奉仕の形であれ、どのような道であっても、神が備えておられる働きを、受け入れる心の準備ができていると感じています。召命の核心とは、「神が遣わされるところで忠実に仕える心」にあるのだと、深く理解することができました。その思いを胸に、私はインドへ旅立ちました。

### ドュルガプルでの歓迎 — 異邦人を迎えるもてなし

コルカタに到着した後、参加者の数名と共にバスで3時間かけてドュルガプルへ向かいました。教区のキャンパスでは、音楽と、伝統的な「手足を洗う儀式」によって歓迎を受けました。多くの人はこの習慣を「最後の晚餐でイエスが弟子たちの足を洗われた場面」と結びつけるのではないかと思います。教会で年に1回の聖木曜日に体験する「洗足式」が思い出されました。私たちはインドで、村々を訪れるたびに、この深い謙遜と愛のしを受けることになりました。物質的には決して豊かではない人々から、これほどのもてなしを受けることは、胸の締めつけられるような体験でした。

歓迎礼拝では、教区学校の子どもたちのオーケストラによる賛美とともに、「献身の祈り」が捧げられました。この祈りは、会議の期間中、ずっと私の支えとなりました。

**司式者:** 「私たちが利得ではなく、善のために、思いやりをもって生きることを誓いましょう。私たちの生が、暗闇にある人へ光をもたらすために。」

**会衆:** 「苦難のない人生ではなく、信仰をもって立ち向かう勇気を願います。痛みから守られることはなく、癒しをもたらす強い心を願います」

### 世界からの証し — 頭・心・手で向き合う課題

続く2日間で、15か国から 法曹、神学者、活動家、聖職者など、多様な背景をもつ25名の登壇者が、自国での人身取引と現代の奴隸制について現状報告をしました。

ドュルガプル教区のサミール・イサック・キムラ主教は、教区の取り組みの本質についてこう語りました。

「これはNPOの活動でも、単なる“プロジェクト”でもない。これは教会の使命なのです。

USPG国際宣教部長のペニエル・ラジクマール牧師は次のように語りました。

「人身売買という罪に向き合うには“頭”だけでは不十分です。“心”と“手”的働きが必要です。被害者を数字として扱ってはなりません。キリストにあるいのちの豊かさは一部の人のものではなく、すべての人のものなのです。」

さらにこう続けました。

「奉仕とは、『してあげる』ことではなく、『共にいること』、『学び合うこと』なのです。」

人身取引についての研究者でフェミニスト神学者のサンジャナ・ダス博士の言葉も心に残りました。

「私たちは“与える側”ではありません。キリストと共に働く”共同労働者(co-workers)”なのです。」

召命のプログラムを終えたばかりの私にとって「キリストの協働者として仕えるとはどういうことか」「すべての人に『キリストにあるいのちの豊かさ』を届けるために、私は何ができるのか」。この国際会議への参加は、改めて問い直す機会となりました。

### 会議の目的

- ・教会と団体が直面する課題や取り組みを共有し、相互に学び合う場を提供すること
- ・人身取引・現代の奴隸制・移民の問題に対応できるよう教会の力を強化し、活性化すること
- ・実践と政策の両面で、今後の協働のためのアイデアを生み出すこと

ここで報告のなかから2つの事例について、紹介したいと思います。

### ザンビア — 脆さのただ中にある希望と回復力

ザンビア・アングリカン・カウンシルのアウトチーチ部門(ZACOP)のエレン・ムバンガさんは、

約94,000人が奴隸状態にあるという深刻な現状を語ってくださいました。ザンビアは、貧困、ジェンダー不平等、そして隣国とつながる緩い国境を背景に、「送り出し国」「通過国」「受け入れ国」の三つの側面を併せ持つ国です。

私が特に驚かされたのは、ザンビアの人口構成でした。総人口1,960万人のうち、10~24歳の若者が じつに81%を占めており、犯罪組織に巻き込まれる危険にされられています。さらに、成人の HIV 感染率が11% であることも、家族や地域社会の脆さに拍車をかけています。

そのような現実の中で、エレンさんは、人身取引への取り組みは、救出という「事後対応」だけではなく、人々の信仰と希望の土台を強めるところから始まるのだと、教会が任う「予防的働き」について強調されました。

### インド — 国境地帯に寄り添う“共にいる”ミニストリー

インドからは、ダルガブル教区プロジェクト・コーディネーターのラジャ・モーゼスさんが、マルダやディナジブル地区の実情について報告しました。貧困、季節労働としての移住、そしてバングラデシュとの長い国境—そのすべてが、この地域を人身取引の危険にさらしています。

教区は、地域での啓発活動、警察や行政・地域指導者との協働、安全な居場所(セーフホーム)の運営や職業訓練など、多角的に取り組んでいました。デリーから救い出された子どもたちや複数の州を転々としながら働かされていた若者たちの実例が報告されました。そのなかで、ラジャさんは、教会の使命について「不正義と闘うこと」だけでは終わらない。人生が引き裂かれてしまった人々のそばに立ち続け、共に歩むことにこそ、福音の希望があることを強調されました。

### 日本聖公会の取り組み — DSG (ディーパー・サービス・グループ) のミニストリー

私は日本聖公会の取り組みについて報告しま

した。背景について説明した後、聖オルバン教会の DSG (ディーパー・サービス・グループ) による移住者・難民支援を「ケーススタディ」として紹介しました。

ここで報告した2023年秋に20名のコンゴ民主共和国・コンゴ共和国出身者を一時的に受け入れた「臨時シェルター」の運営は、高橋主教をはじめ、自白聖公会の聖職・信徒の皆さまの支えなしには成し得なかった働きです。

DSG の活動では、困難の中で生きる人々と「祈り、共にあること」を通して、イエスが教えられた「奉仕」の意味を問い合わせています。

報告後、多くの方から「日本の難民申請者が置かれている状況を初めて知った」と声をかけられました。地域別のグループ作業では、ミャンマー・韓国・香港・日本が1グループとなり、出身国と受け入れ国という違いを超えて、共通の課題を洗い出した後、私たちはこれからも継続的に協力していくため WhatsApp グループを作りました。

### The Deeper Service Group (DSG) / ディーパー・サービス・グループ

- ・2018年、聖オルバン教会にて設立
- ・使命：日本に暮らす難民、庇護希望者、移住者に仕えること
- ・「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせてくれた」(マタイ 25:35)
- ・約80名に対し、食料品・衣類・生活用品などの月例支援を実施
- ・光熱費・医療費などの緊急支援
- ・年間予算のうち、聖オルバン教会からの拠出は5%未満(残りは寄付による)

### 文化交流 — 折り鶴と祈り

2日目の夕べには、各国の文化を紹介する交流会が開かれました。フランス執事の発案で、日本からは折り鶴を紹介することにしました。執事

は何百もの小さな折り鶴を作り、紐でつないでくださいました。

また、カトリック取手教会の友人ジョンが、佐々木禎子さんの物語について文章を執筆し、それを私が読み上げました。折り紙と折り方を添えた祈りのカードも作り、参加者全員に配布しました。

### マルダでの現地視察 — 洋裁学校とセーフホーム

会議後半、私たちはバングラデシュ国境近くのマルダを訪問しました。貧困・移住・人身取引が交差する地域です。

女性16名が自立のための技術を学ぶ洋裁学校では、足踏み式ミシンが1台しかないと知りました。

また、少女たちが安全に暮らし、学校に通い、伝統舞踊などの活動に参加しているセーフホームも訪問しました。

開設したばかりの洋裁学校の現状をみて、私は「知る」だけでは足りない。私たちはどう応えるのか。日本の教会として、何を担えるのか。「ミシンをあと数台支援するだけでも、彼女たちの未来にどれほど大きな影響をもたらすことができるだろうか」と祈りながら考えました。

### 信仰と交わり — キリストにある一致

学びは講義だけではありません。移動のバスの中、食事の時間、そしてひょんなことから参加することになった1,200人規模の現地の結婚式 — あらゆる場面で交わりが生まれました。

祈り、歌い、踊り、共に食卓を囲むうちに、私は気づかされました。私たちは孤独に生きるようには創られていないのです。信仰は、交わりの中で深められていくのです。

最終日の聖餐式の後、参加者はこれまでの議論をまとめ、今後の協働に向け活動の方向性を共有しました。もちろん、簡単な解決策はありません。多くの講師から、「安易な希望」への警告を聞きました。

## Peace Begins with Small Things

One act, one prayer, one person at a time.

*"The kingdom of God is like a mustard seed, which is the smallest of all the seeds on earth; yet when it is sown it grows up and becomes the greatest of all shrubs, and puts forth large branches." (Mark 4:30-32)*

With Prayers for Peace,  
The Migrant Ministry  
of the Deeper Service Group (DSG)  
St. Alban's Anglican-Episcopal Church  
(Tokyo, Japan)

### 平和は小さなことから始まります

—一つの行い、一つの祈り、一人の人から—

「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。

それは、からし種のようなものである。

土に蒔くときは、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る」  
(マルコによる福音書4章30-32節)

平和への祈りをこめて  
聖オルバン教会(東京)  
難民・移住者ディーバー・サービス・グループ(DSG)

会議の2日目、サンシャイン・ドルヌアン神学者はこう説教しました。

「復活のキリストには、なお傷跡が残っています。  
その体には、闘いと拷問と圧政の歴史が刻み込まれています。  
傷は消えることはありません。  
復活とは痛みの否定ではなく、痛みの変容なのです。  
私たちは、傷のあるままで神に抱かれ、癒しと希望へと導かれるのです。」

「もしあなたが百人に食料を与えることができないのなら、ただ一人に与えなさい。」

— マザー・テレサ

おわりに — 新たな召命のとき

神さま、そして日本聖公会、ドュルガプル教区、USPG、そして出会ったすべての方々に感謝しながら、私は日本へ戻りました。今回の旅で「キリストのいのちの豊かさを、すべての人に」という教会の使命を、世界の教会と手を取り合って担っていく必要性を強く感じました。

この記事を書いている今は、まだ見守りプログラムに続く次のステップはわかりません。

私には執事、牧師、病院や学校でのチャレンジとして仕える道が開かれるのか。それとも、日本聖公会と海外の教会との「橋渡し」として、働くことが私の役割なのか。あるいは、信徒として奉仕を続けることが召命なのか。

どの道に導かれるにせよ、「遣わされるところで、忠実に仕える心と柔らかい従順さ」が与えられますよう祈り続けています。アーメン。

### 最後の巡礼 — そして新たな一步へ

すべての国際会議の日程を終えた後、私はコルカタに移動し、聖ジェームス教会の「リメンブランス・サンデー（イギリス連邦諸国における戦没者追悼記念日）」に与り、さらにマザー・テレサの墓所を訪ねました。墓前では小さな聖餐式が行なわれており、私はこの1週間を振り返りました。

## □青山墓地礼拝・清掃



— 2025年11月21日 —

今年は死者の月(11月)に、管区事務所の恒例行事となった青山宣教師墓地清掃作業を終え、お恵みのうちに逝去者記念礼拝をおさげいたしました。主に感謝!



管区事務所総主事・職員一同



## \* 2025年各教区財政担当者連絡協議会 \*

— 2025年11月28日～29日 ナザレの家 —

誌面の都合上:

8頁～11頁に掲載されている記事の写真を、こちらのコラムにて掲載いたします。

1日目、ダビデ上原榮正首座主教様よりご挨拶いただいている際の写真です。

実り豊かな会合となりました。主に感謝!



# Merry Christmas and A Happy New Year of 2026

首座主教

ダビデ上原榮正

総主事 司祭  
エイサイ矢萩新一

宣教主事  
司祭 卓志雄

*Paul*

\* Hiroko Suzuki

マオ 金子恵美江

エリザベス 鈴木 一



Apphia  
水野直子

及川史子

鏡村かおり  
Cecilia K. M.

鳥居雅志

ヨシュア  
西島厚

水谷 牧子